

# 逆流性食道炎



消化器内科医長  
吉川 敦

## はじめに

武雄市民病院に今年6月から勤務しています内科医長の吉川（きつかわ）です。消化器（胃や大腸など）を専門領域とし、武雄の地に赴任することとなりました。よろしくお願ひします。

## 専門紹介

消化器の診療、特に胃カメラや大腸内視鏡などを専門に行っています。検査のみならず、早期胃がんや大腸ポリープ、食道静脈瘤などに対する治療内視鏡まで行っています。

実際に診療の場で遭遇した、頻度の高い病気である逆流性食道炎についてご紹介します。

## 逆流性食道炎とは？

胃の内容物（主に胃酸）が食道に逆流するために起こる食道の炎症です。

## 逆流性食道炎の症状

- ・むねやけ
- ・酸っぱいものがあがつてくる
- ・げっぷが多い
- ・のどの痛み、つかえる感じ
- ・胸の痛みがある咳が出る
- ・声がかれる
- ・横になるとむかむかがひどくなる
- ・など他にも多様な症状を示します。

## 逆流性食道炎の診断

一般的には、内視鏡検査（胃カメラ）を行います。これにより、逆流を伴う食道や発赤やびらん（ただれ）が認められれば診断できます。ただし症状はまさしく合致するものの、この食道の変化がごくわずかであったり、認められない場合には内服して症状が改善するかどうかで判断します。

## 逆流性食道炎の治療

逆流性食道炎の薬物治療は、症状を和らげる対象治療が主体で、胃酸を抑える薬を用います。薬で症状を改善させるとともに、次の生活上の注意点を守ることが大切です。

## 生活上の注意点

- 肥満やお腹を強くしめることは、お腹に圧力がかかり、胃食道逆流症の原因になります。腰痛に対しバンドをしている人も、動かないときはゆるめるようにしましょう。
  - 胸やけの傾向がある人は、一度に食べすぎないこと、特に消化の悪いものや胃に残りやすいもの（油っこいもの、いも類など）に気をつけることが大切です。
- 食後すぐ横にならず、座って過ごすことを心がけましょう。また、寝た後で症状の強くなる人は、上体を高くして休むと改善することがあります。

## おわりに

今回は逆流性食道炎についてのご紹介でしたが、他にも胃がんや大腸がん、胃十二指腸潰瘍など、診断に内視鏡検査が有効な病気が多数あります。特にがんに関しては、症状がないものも多く、見つかった時は進行がんで治療が不可能な状態であることも少なくありません。少しでも不安に思われることがあればご相談ください。市民の皆さまに信頼いただける病院を常心がけ診療を行います。これからもよろしくお願ひします。

## 逆流性食道炎



# 脊髄・脊椎の病気

## 「椎間板ヘルニア」

### 腰椎椎間板ヘルニア

ヘルニアとは臓器の一部が本来あるべき場所から逸脱した状態です。

椎間板ヘルニアとは、椎間の周辺の硬い部分（繊維輪）に亀裂が生じ、そこから中心部分（髄核）が飛び出して（膨れて）しまう事を椎間板ヘルニアと言います。

多くの場合、飛び出した（膨れた）椎間板が神経などを圧迫する事により、激しい神経根性の下肢の疼痛、運



動麻痺、歩行障害などを生じます。腰痛の症状も多いですが、やはり特徴的な症状は下肢の疼痛です。ひどくなると膀胱直腸障害を来すこともあります。

### 頸椎椎間板ヘルニア

腰椎椎間板ヘルニアと同様に神経を圧迫して症状が出現しますが、頸椎（首の後ろ）には腰椎にない脊髄が存在しますので、脊髄そのものを圧迫して症状が出現する場合があります。

脊髄は中枢神経であり、一度障害されるとほとんど回復しません。神経を圧迫して上肢の疼痛が生じている場合は、保存的な治療で80%が治癒します。

主な症状としては、まず肩こりや首の痛みなどの局所の症状として始まり、その一部には上肢（手と腕）

の神経根症状が加わり、さらに、そのまた一部に運動障害や上肢の脊髄症状が加わります。

このため、初期の局所症状の段階では、ただ単に寝違いの診断ですまされていくものも少なくありません。また頸椎椎間板ヘルニアの存在する高さによって、手足に発生するシビレや痛み部位、触覚や痛覚などの知覚障害がおこる部位に、違いが見られます。頸椎椎間板ヘルニアをレントゲン写真で確認することはできませんが、MRI、さらには脊髄造影などを行えば、椎間板の盛り上がりやふくらみや脊髄の圧迫像として見ることが出来ます。

全身の症状がありますので歩きにくいからといって腰椎と勘違いしないようにしましょう。



### こんな症状ありませんか？

- ・首くもく腕く指へのしびれ感、痛み。
- ・咳やくしゃみ、首を後ろに反らすと肩甲骨や手指にしびれ感、痛みが走る。
- ・肩や肘、手指が思うように動かせない。筋力低下など。
- ・上下肢のしびれ感（手袋や靴下を履く範囲から体幹へ広がる）、痛み、灼熱感、冷感、筋力低下
- ・ボタンかけ、ハシの使用、筆記などの運動障害
- ・足が突っ張って歩きにくい、軽い筋肉痛のような違和感
- ・膝がガクガクする、階段を下りるとき手すりがないと不安などの歩行障害
- ・おしっこや便の出具合が悪いなど

毎週火曜日  
腰痛の診療日

毎週水曜日  
手足のしびれの診療日



※診療をご希望される方は、あらかじめ市民病院受付窓口または、お電話でお問い合わせください。

問 武雄市立武雄市民病院

担当：西田憲記 副院長

☎ (23)3111 (代表)